

日刊 磐城時報 編輯兼發行所 田中弘成 印刷所 加藤活版所 廣告料 一行十四字 諸君金五拾銭

少年紹介の成績 平町職業紹介所では昨年から開始した少年の職業紹介が理想外の好成績を収めたので今後一層此方面に力を入れることとなり、目下同郡下小學校と聯絡を取つて準備中であるが、來年度は兒童の性能試験機を常備し就職希望の少年の性能を試験の上其性能に應じそれと適當なる方面に就職斡旋する事となつた

陳情が容れられぬ場合は 役場と學校を閉鎖 縣稅納入延期願に就て 駒木根玉川村長語る

石城郡玉川村では藤原川の汎濫で稲作が甚減の收穫で疲弊其極に達してゐるため昨報の如く駒木根村長は二十七日出縣し擔稅力の出來る迄縣稅納入を延期して貰ひ度いと陳情したが、右について駒木根村長は語る。 「玉川村は今春の大洪水で村内の水田は大半欠損し全郡下の農作を傳へられて居る折柄同村だけは收穫半減と見られ

商港修築費削減に對し 小名濱町長再び陳情 悲壯な決心を披瀝

小名濱港の來年度四割削減に對し鈴木小名濱町長等は舞鶴外各關係町長と廿七日午後一時内務省及び大藏省を訪問し 失業者の續出する今回の査定案に對して地元民としてはこのまゝ引込むわけに行かぬから若し國庫負擔からの支出が減少する際は縣費負擔を増加して工事をすゝめ、失業者をささすに豫定通りに工事をされる様御配慮をお願いする どの陳情に對し、小川大藏省政務次官は

出炭制限を 小炭礦に交渉 石城の磐城、入山、古河、福島 等各炭礦では全國石炭聯合會の 決議に基き來る十一月から出炭 二割二分の制限を行ふ事となつ

たが、なほ右と同時に木曜會に加盟せぬ群少炭礦に對しても濫賣せぬやう出炭制限を近く木曜會から交渉する筈で、この方面用線を利用してゐる關係を辿り夫々勸告する筈で、その制限率は大體一割四、五分とする方針である、各炭礦需要季に入つたので減切需要増加し磐城炭礦の如き五萬噸内外に達してゐた山元貯炭が現在では二萬噸に激減し、出炭制限率の擴張により年内には貯炭が殆ど一掃されるであらう。

永戸、澤渡 消防召集 石城郡永戸、澤渡の消防非常召集は二十八日午前四時執行し永戸には鯨岡警部補、澤渡には荒井署長臨席したが、成績良好であつた。

観楓列車延期 去る宮城縣名取郡愛高村生れ當時住居町まで来た時折柄平警察署で所石城郡赤井村大字高萩福原炭は自動車の特取取締を執行中であるが、結局二年間は二學年の受難期と決定した譯だ。 寄附金を横領 石城逃走したが、被害者菊地は二十

豫想を裏切られ 狩獵家大失望 免許者は昨年の半分 自動車の特別取締

平警察署に於ける本年度の狩獵免許下附願ひ目下の處昨年と比較し約五分減で、大部分は有階級者が多い模様である、これは季節柄當然の現象と観られるが各天狗連は仲間の勢いだけに今年こそ大獵を豫想し天狗鼻をうごかしてゐるが、十五日解禁以來十日間を經過してゐるも未だ大獵の沙汰などは殆ど開かれず、期待は完全に裏切られた有様である、獵の話によれば相當各方面共鳥獸の蕃殖が良好を傳へられたので、免許を願ひ出た者は尠くないといふ獵物が多いのが當然なのがこの不獵を見ても氣候の關係で時期が例年よりおくれてゐるのかも知れない不景氣風に鳥類までが吹飛ばされた譯でもあるまいから、そのうちには好い獵もあらうと。

泥酔した坑夫 巡査喰つてかゝる 格闘の末平署に檢束

平町消防組では警察廳舎の移轉に伴ひ夜警所並に自動車ポンプ置場を現警察前廣場に設置すべし豫て縣に該用地の貸與方を申請中の處この程參事會の決定を見たのでいよいよ間口六間奥行五間程度、二階建の建物を設け更に自動車ポンプ一臺を購入し二臺備へ置く外、撤水自動車もここに置く筈で、詰所には撤水車の運轉手、助手を常任せしむると共に常備消防として消防手二名を毎交替に、尙これに二名の監督を置き都合五名宛を連日左記日割で何れも平町第一小學校に開催するが、縣から田代視學臨席。

赤井嶽の 記念講演會 石城郡赤井村青年團主催助語煥發四十年記念講演會は二十六日午前十時より同村赤井嶽に於て開催した、聴衆は平町を初め附近の青年五百余名にして小柳知事、旭大僧正、智山大學教授高球聯盟主催第五回石城郡下軟球井觀海師、同高神覺昇師、願成大會は二十六日磐城中學グラウンドに開催の豫定だったが降雨のため翌月九日に延期。

女學校二年生に 退學者の多い理由 學校當局で調査 中町警城高等女學校二年生(中四)は二十六日平署に召喚嚴重本年四月の新學期から九月末日取調を受け、同夜は留置されまでの僅か六ヶ月間に約三十名だが、探問するに三井炭礦が出近く退學したので、學校當局水のため休山の余儀なきに至つては何故彼女等は退學するかとた際同村小學校に對し金三千圓原因について過般來調査中であつたが、この程漸く終了した、原因によつて一學年は入學したばかりで未だ海のものとも山のて身柄を平檢事局へ送局する等のものも決らずに居るが、二學年に進學するに及んで漸く學費や其他の事に困難を來たし、三學年になれば後一學年だからと言つて辛棒し、四學年になるといよいよ卒業期だといふのでどうも無理しても押通すことにするとの事だが、結局二年間は二學年の受難期と決定した譯だ。

宿料を踏倒す 當時住所不定無職自稱宮城縣名取郡玉浦村生れ大泉滿造(三八)は去十九日午後二時半頃石城郡磐城村字上湯長谷小野田炭礦坑夫菊地新造(四二)の方を訪れ内郷村常陸館に宿泊し宿料十二圓の支拂に窮したからとて十二圓を騙取に窮したが、被害者菊地は二十

材木を借り散かし 拾値に賣つて夜逃げ

平地方で珍らしい詐欺

石城郡大野村生れ當時江名町村今同郷農事試験場では新米の糶木商横山周太郎(三四)は同職の摺りから玄米にして俵へ詰るま西白河郡佐川材木店、石城郡上での質演競技会を繰下三ヶ所に遠野村油屋材木店其の他各地材材で開催する事となり濱三郡は十木店約二十軒軒から代金後拂ひ一月十三日、相馬中村町、長友の契約で多数の材木を仕入れを公園でなす等、出演は二組五名拾て値同様に約三千圓で各方面十五組と限定し、一等から三等に賣飛ばし現金を懐にして二十まで、入賞組には知事賞を授與四日家族と共に行衛を睡ましたる由。この催しは最初の事との取引のあつた各材木店では農家の興味を惹いてゐるが他何れも驚いて平署に訴へ出たがは會津分場と郡山の二ヶ所であり取込み詐欺は平地方には珍らしい犯罪である。

柴田チームに 南町軍辛勝

スコア十對六

二十八日午前八時半から大町若松病院前空地に於て柴田曲馬團野球部と南町第一野球部の對抗戦を行つたが、七回まで兩軍得点四對四の大接戦、八回戦に延長し柴田五点を先取して萬事休すと思はれたが、南町軍猛打を沿せ六点をリードし、最後に波瀾を生んで柴田チームの惜敗となつた。

前借踏倒

倉町生れ双葉郡長塚村字町佐々木カフエー方女給鈴木せん(二〇)は二十六日前借金百圓を踏倒し逃走中村町某旅館に潜伏してゐるらしく捜索中。

相馬支局通信

▲**糶摺り調製競技**
相馬郡内各中小學校秋季大運動會も愈々終りを見せた廿五日そ

電音演奏會

町大盛室時計店音部主催電氣音器演奏會は廿六日午後五時より同町旭座にて開催大入場員の盛況で、抽籤の結果當選の樂を得たるもの

▲一等仲町高橋忍藏(日製蓄音器一臺) ▲二等樋口エ子(黒塗大形置時計一個) ▲三等鹿又キイ子(レコード十時五枚) ▲四等本町山本伊助(レコード二枚) ▲五等旭町門馬七郎(蓄音器針一千本)

苦しき中村町

氣の深刻は滞納に滞納者が増加するのみで相馬中村町でも愈々困窮し、小學校教員俸給も漸やく半額宛を給したる有様、町制以來の苦境で各方面行政上差支なき限り縮少を成す計劃にて従來十區に區分してゐたるが六區位となし経費節約を計る目論見で目下調査中である。

本社メダル寄贈

相馬郡内各中小學校秋季大運動會も愈々終りを見せた廿五日そ

貸家

平町字新川町十七番地
商店向き(家賃十八圓)
同字新川町三十一番地
勤人向き(五圓五十錢)
同二階建(六圓五十錢)
同字新川町三十三番地
商店向き(一ヶ所)
御希望の方は左に御相談下さい
平町字新川町
中野勇吉
電話百三十三番

印刷物は 加納活版所へ

共済 共同 共同
融金 易融
蓄貯 味趣
堅ト意誠
會商 無城器
電話百三十三番

寒さに暖房は
鈴木炭團製造所
「アンカ」「コタツ」は一晚一個
木炭代用頗る經濟
平町字古銀治町杉ノ澤
鈴木炭團製造所
平町字二丁目
魚清氷卸部
電話六三三番

スポーツの秋
各種運動具
最新で、軽快で、スマートな
秋向アンター・スエター
及ビ各種運動服裝
尖端的感覺百パーセント
平・田町
大塚支店 製靴部
運動具部
電話七七番

和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
諸橋久太郎
電話九九番

咳止の
オピール錠
藥學博士 丹波敬三先生製藥指導
醫學博士 豊島豊次郎先生動物試驗
特約店 平町一丁目(電話四六二番)
大平屋藥店

黒小倉學生服
今年はウンと安くなりました
型も新しく一裁縫も丈夫に
皆様にホメて頂ける自信ある
冬服を……澤山揃いました。
特製品 小學生用 2,000円ヨリ
特製品 中學生用 3,000円ヨリ
なかや洋服店
平二 電203

専門眼科醫師擔任
無料檢眼
無科檢眼券 御利用下サイ
信用アリ正確味萬点ノ時計
御客様本位の……眼鏡部
常盤屋時計店 電三三九

生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入、自然
營業では御座いませぬ趣味で御相手致し度うございます
華道教授 天水庵 岡田華悦
平町仲町三 (電話六二五番)